

簿記3級仕訳問題 第3回

問. 次の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

現金	売掛金	当座預金	減価償却累計額	立替金
受取手形	仮払金	前払金	未収金	備品
支払手形	買掛金	仮受金	未払金	貸倒引当金
水道光熱費	前受金	資本金	売上	仕入
償却済債権取立益	通信費	固定資産売却益	旅費交通費	支払保険料
固定資産売却損	貸倒損失			

- かねて山口商店から掛けで仕入れた商品 80 個（取得原価@¥2,500）のうち、3 個は不良商品のため返品し、5 個が梱包箱が破損していたので、1 個あたり ¥500 の値引きを受けた。
- 店舗兼自宅の水道光熱費 ¥3,000 及び店主個人の生命保険料 ¥5,000 を現金で支払った。なお、店舗兼自宅の店舗の使用割合は 30% で自宅の使用割合は 70% である。
- 従業員の東京の出張に際して、概算旅費 ¥100,000 を現金で渡した。
- 前期に貸し倒れ処理した得意先に対する売掛金のうち ¥30,000 が現金で回収された。
- 店舗で使用していた器具備品（取得原価 ¥400,000、残存価額 取得原価の 1 割、耐用年数 6 年）を 3 年にわたって使用をし、かつ、3 年分の減価償却を行ってきたが、当期首に ¥150,000 で売却し後日代金を受け取ることになっている。ただし、減価償却費は定額法で計算しており、記帳方法は間接法を用いている。

簿記 3 級仕訳問題 第 3 回 答案用紙

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1				
2				
3				
4				
5				

簿記3級仕訳問題 第3回 解答・解説

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	買掛金	10,000	仕入	10,000
2	水道光熱費 資本金	900 7,100	現金	8,000
3	仮払金	100,000	現金	100,000
4	現金	30,000	償却済債権取立益	30,000
5	未収金 減価償却累計額 固定資産売却損	150,000 180,000 70,000	備品	400,000

1. 仕入の返品と値引きの仕訳上の処理はともに仕入勘定の減額をします。
2. 店主の個人的な支出は事業の費用とはなりません。この場合の店主の生命保険料は事業のための費用にはなりませんので、資本金又は引出金勘定を使用します。本問では資本金勘定を使用することになります。店主の個人的な支出としては、店主が支払う所得税や家計のために支出した現金などが該当します。
3. 仮払いの為の出張旅費は旅費が確定していない為、仮払金勘定で処理し内容が確定したら仮払金勘定から確定した勘定に振り替える。
4. この問題は既に貸し倒れとなった売掛金を前期に貸し倒れ処理している。つまり貸倒損失として計上、あるいは貸倒引当金を充てて売掛金を精算しているのである。その精算された債権をその後に回収したのなら、売掛金は既に精算されて残高が無いので、前期以前の修正の収益として貸方に計上することになる。
5. 器具備品は間接法の定額法で3年償却されたことを読み取ることが鍵になります。3年償却した器具備品の帳簿価額と売却金額との差額が固定資産の売却損益になるのです。また、固定資産の売却は事業として行う商品売買に伴うものではありませんので、掛代金は売掛金勘定ではなくて未収金勘定を使用します。

(1) $¥400,000 - (¥400,000 \times 0.9 \div 6 \text{年} \times 3 \text{年}) = ¥220,000$ 売却時の帳簿価額

(2) $¥150,000$ 売却代金

(3) $(2) - (1) = \blacktriangle ¥70,000$ 売却損